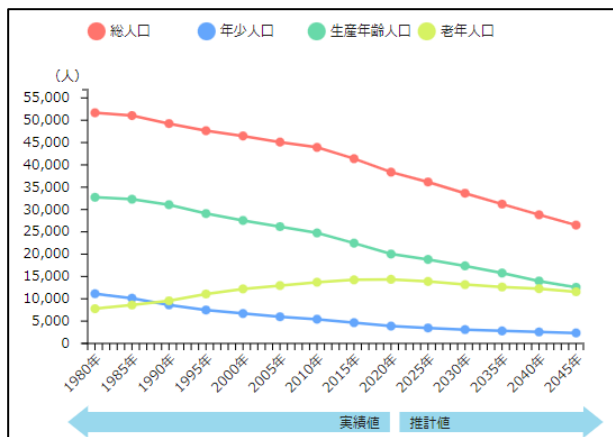


## ＜RESAS による分析 岡山県井原市＞

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

### ＜人口＞

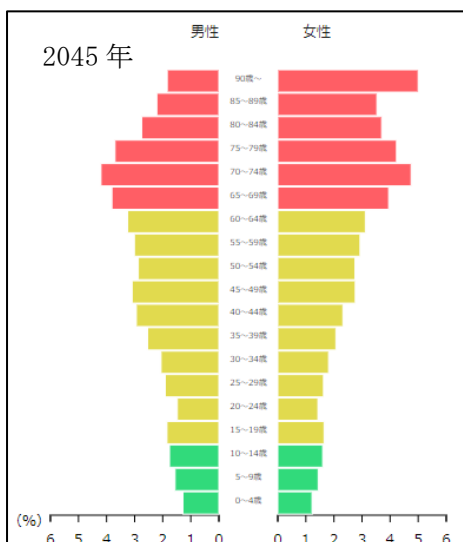
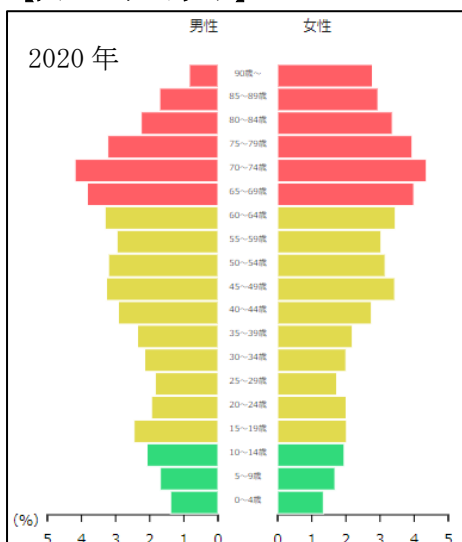
#### 【年齢別人口の推移】



2020年の井原市総人口は、38,384人。10年前（2010年）の43,927人と比較して、約14.4%減少している。2020年の老年人口割合は岡山県平均と比べて高く、年少人口割合、生産年齢人口割合は岡山県平均と比べて低い。

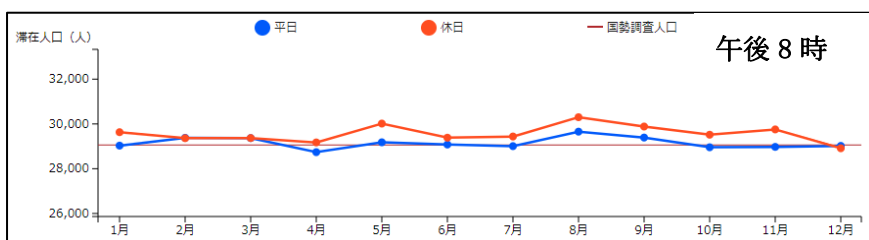
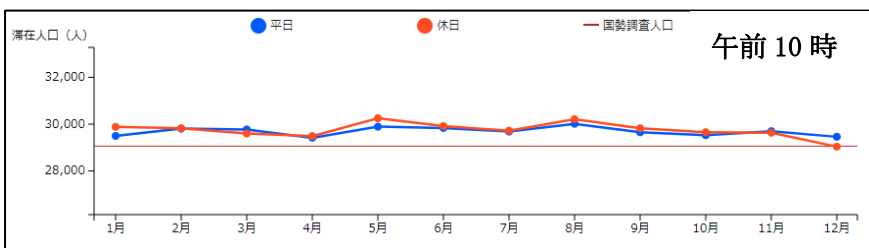
今後の総人口は2020年と比較して2025年に5.8%、2035年に18.7%、2045年に30.9%減少する見込みである。

#### 【人口ピラミッド】



現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年から2045年にかけて老年人口（65歳以上）は19.3%減少、生産年齢人口（15歳～64歳）は37.2%減少、年少人口（0歳～14歳）は39.5%減少する見込みである。消費の縮小や労働力不足が予測される。

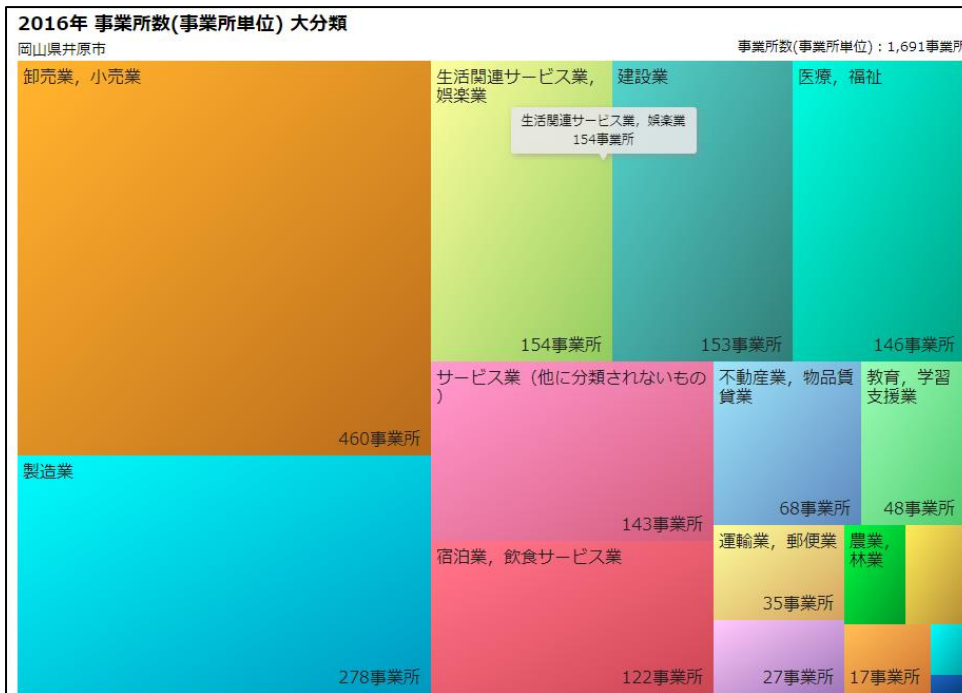
#### 【滞在人口】2021年1月から12月



昼間人口（午前10時）と夜間人口（午後8時）を月ごとに比較したグラフである。夜間人口の方が昼間人口より若干多いことから、他の市町村への通勤・通学者数（流出人口）が他の市町村からの通勤・通学者数（流入人口）よりもやや多いといえる。

## <産業構造>

### 【事業所数】

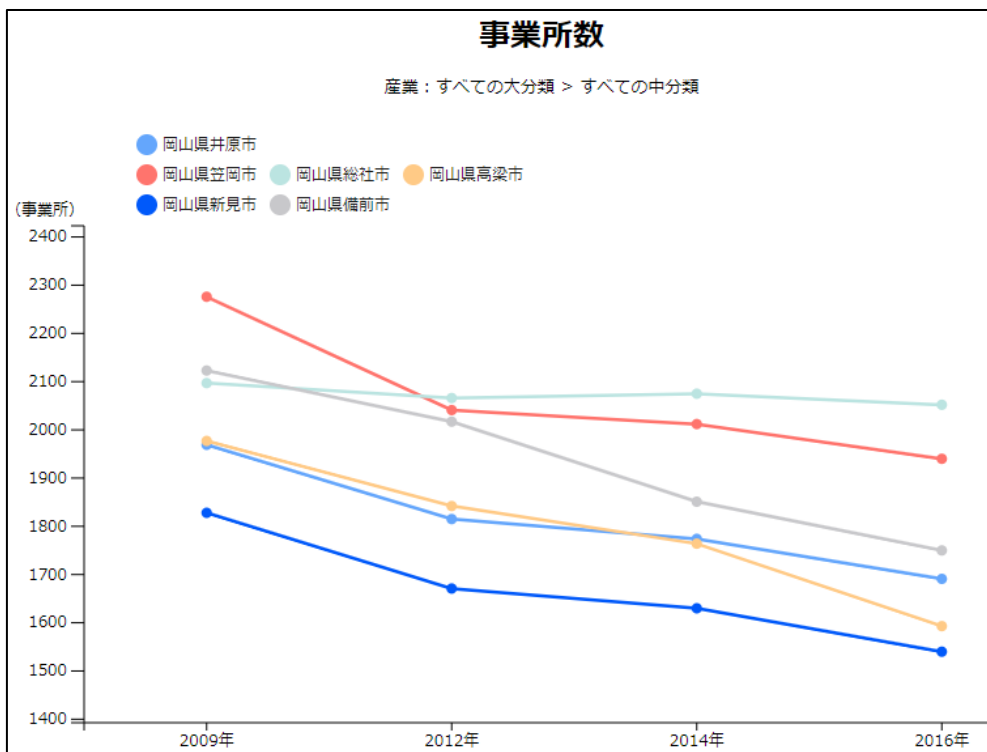


業種ごとの事業所数を面の大ききで示したグラフである。最も多いのは、「卸売業・小売業」460事業所、全体の27.2%を占めている。次に「製造業」278事業所（16.4%）、生活関連サービス業・娯楽業154事業所（9.1%）、建設業153事業所（9.0%）と続く。

※経済センサスにおいて、事業所と企業等で数え方が異なる。例えば、本所とB支所、C支所で構成されるA株式会社は企業等としては1企業等であるが、事業所としては3事業所と数えられる。個人経営であっても同一の経営者が複数の事業所を経営している場合は、1企業等となる。

### 【事業所数の推移】

事業所数（事業内容等不詳を除く民営事業所について集計したもの）の推移を見ると、2016年の事業所数は1,691事業所で、岡山県内27自治体中9位、全国1741自治体中643位。他地域を見ると、総社市2,052事業所、笠岡市1,940事業所、備前市1,750事業所、高梁市1,593事業所、新見市1,540事業所となっている。



総社市 2,052 事業所

笠岡市 1,940 事業所

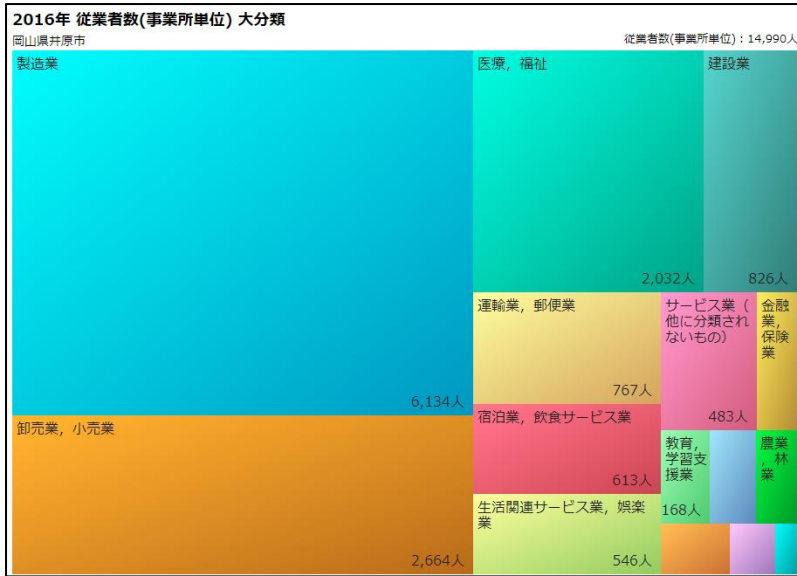
備前市 1,750 事業所

井原市 1,691 事業所

高梁市 1,593 事業所

新見市 1,540 事業所

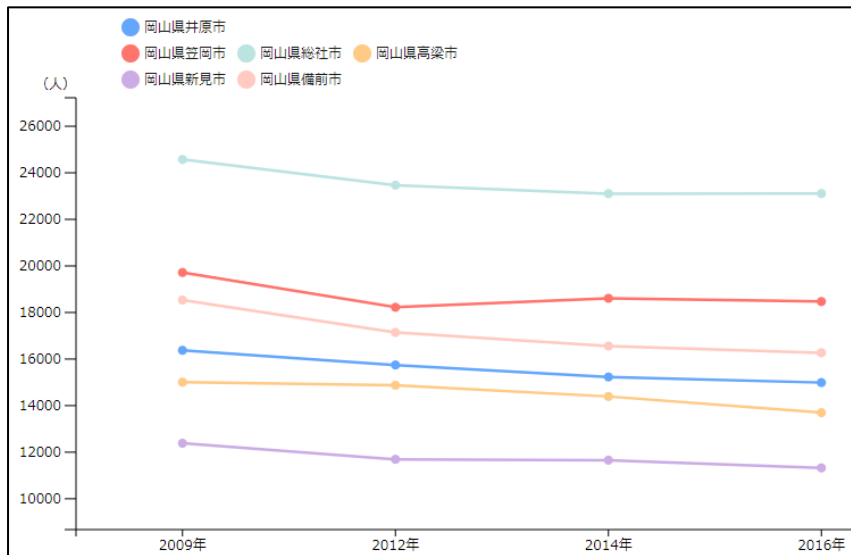
## 【従業者数】



業種ごとの従業者数を面の大きさで示したグラフである。最も多いのは、「製造業」6,134人で、全体の41.0%を占めている。その後、「卸売業・小売業」2,664人(17.8%)、「医療・福祉」2,032人(13.6%)と続く。

## 【従業者数の推移】

従業者数の推移を見ると、2016年の従業者数は14,990人。2014年と比較すると、1.6%減少している。他地域でも減少が続いているが、総社市では7人(0.003%)増加している。



総社市 23,110人

笠岡市 18,471人

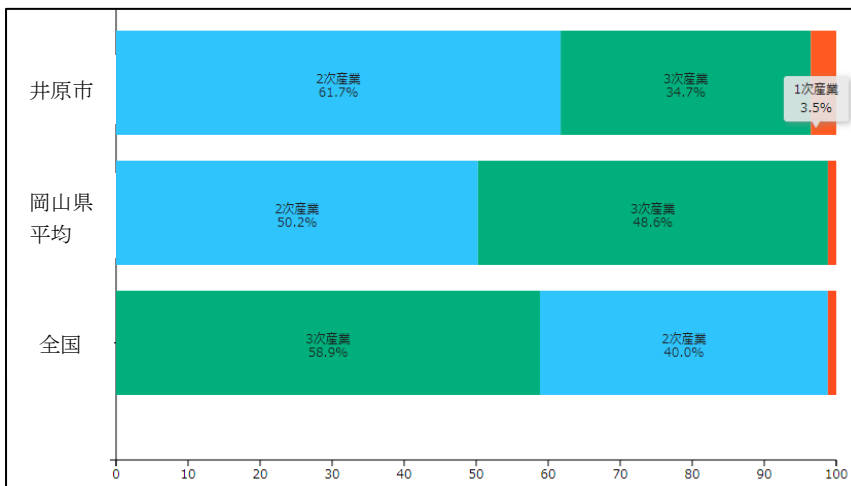
備前市 16,271人

井原市 14,990人

高梁市 13,700人

新見市 11,325人

## 【地域内産業の構成割合】

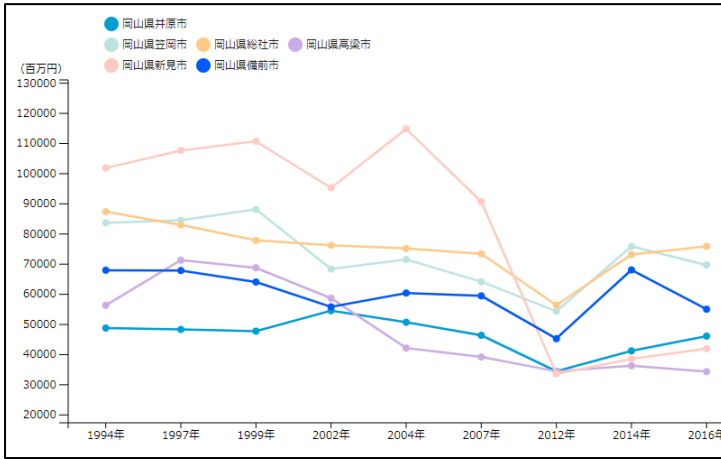


井原市の産業の構成割合を全国および岡山県平均と比較したグラフである。井原市は、第2次産業が61.7%と最も高く、第3次産業の34.7%が続いており、全国の傾向と異なる。

<小売業・卸売業>

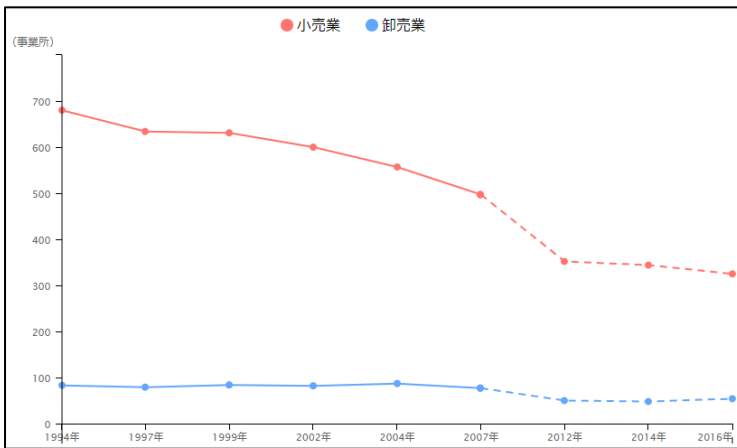
【年間商品販売額の推移】

小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。2016年の井原市の販売額は461億円。4年前の2012年と比較すると、33.8%増加している。他地域を見ると、総社市34.4%増加、笠岡市28.2%増加、備前市21.6%増加、新見市24.8%増加、高梁市0.4%減少となっている。



総社市 758 億円
笠岡市 697 億円
備前市 550 億円
井原市 461 億円
新見市 419 億円
高梁市 343 億円

【事業所数（小売業・卸売業）の推移】



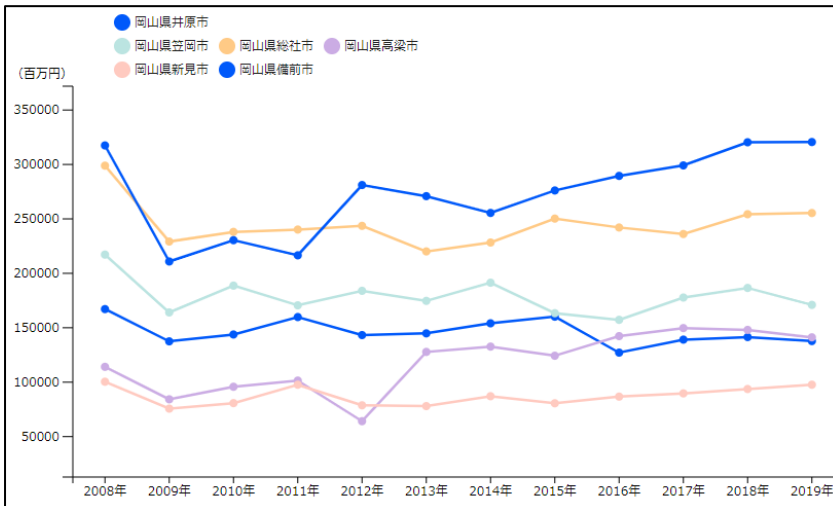
小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2016年の事業所数は小売業325事業所、卸売業54事業所。4年前の2012年と比較すると小売業7.7%減少、卸売業は8.0%増加している。

※グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

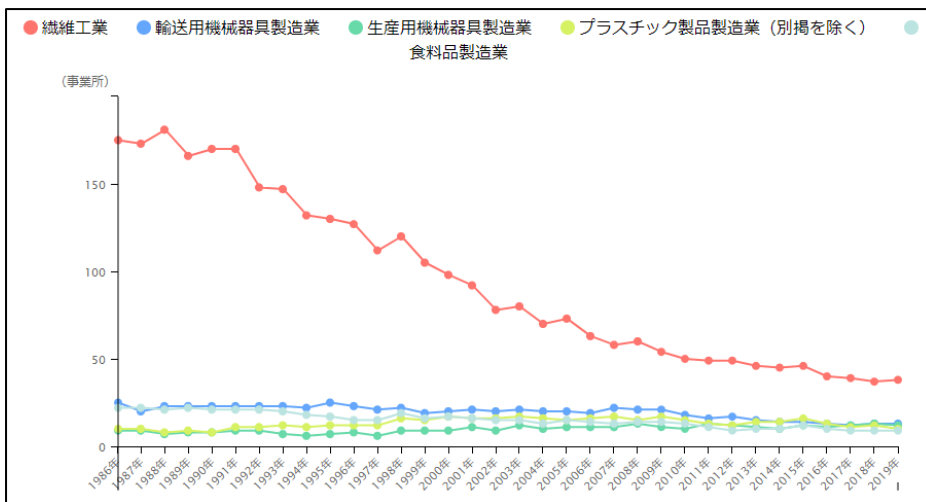
<製造業>

【製造品出荷額等の推移】

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。2019年の井原市の出荷額等は1,377億円である。10年前の2009年と比較すると0.2%増加している。他地域を見ると、備前市52.0%増加、総社市11.4%増加、笠岡市4.2%増加、高梁市67.5%増加、新見市29.0%増加となっている。



備前市 3,206 億
総社市 2,553 億
笠岡市 1,710 億
高梁市 1,412 億
井原市 1,377 億
新見市 976 億



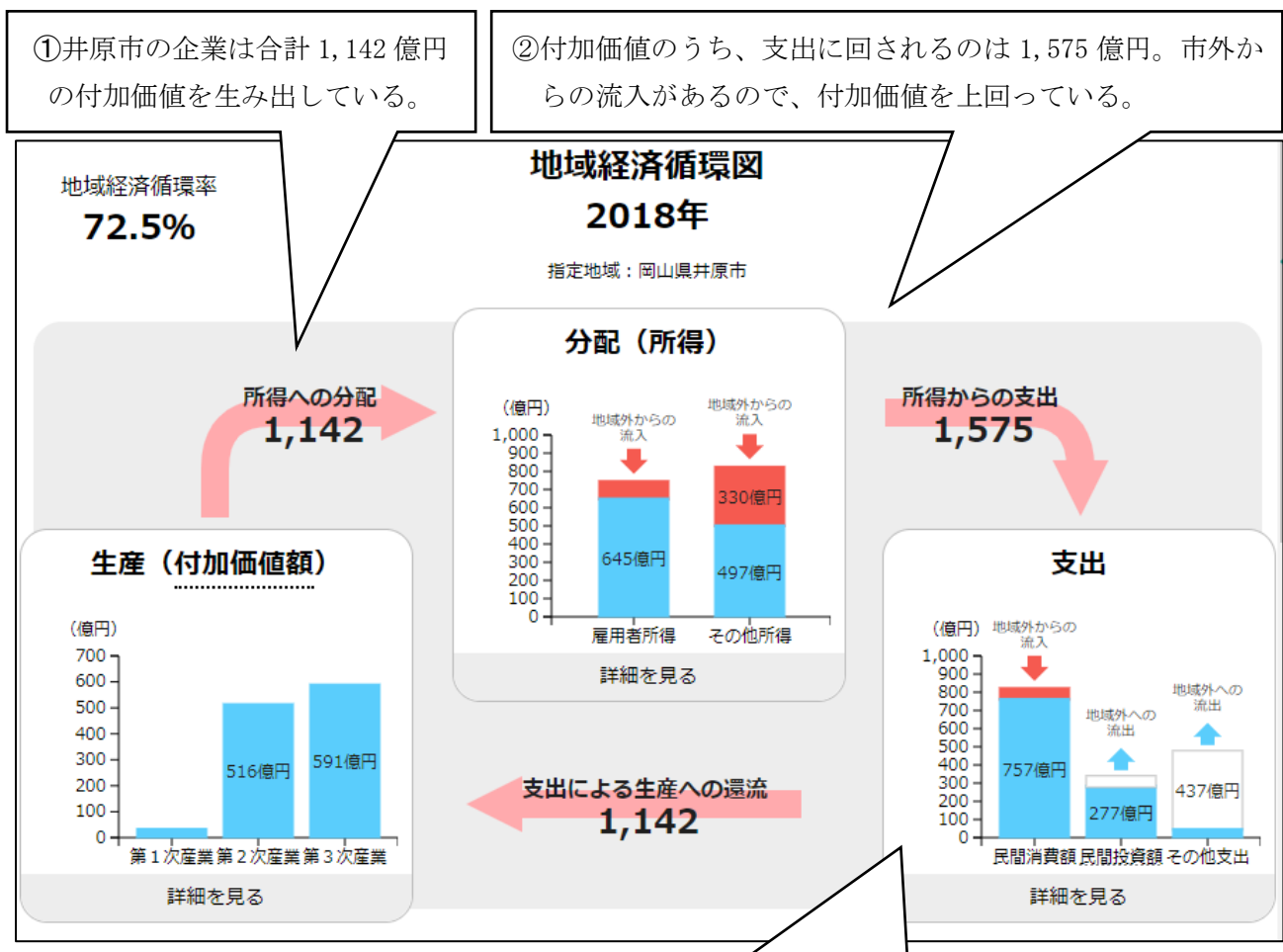
**【事業所数 (主要製造業) の推移】**

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。井原市には、繊維工業が多いが、1980年代後半の180事業所をピークに年々減少している。輸送用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、プラスチック製品製造業、食料品製造業が続く。

**<地域経済循環>**

**【地域経済循環図 (2018年)】**

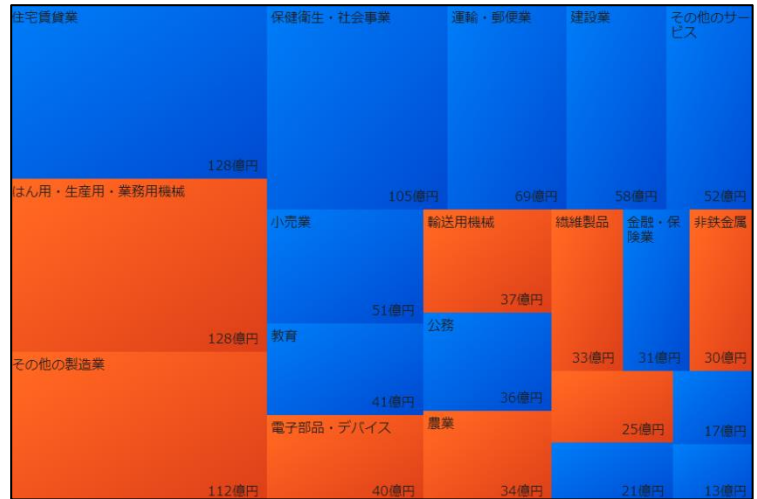
地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や支出として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



**③市内で支出に使われた金額は1,142億円。市外への流出があるため1,575億円より少ない。**

### 【生産分析（2018年）】

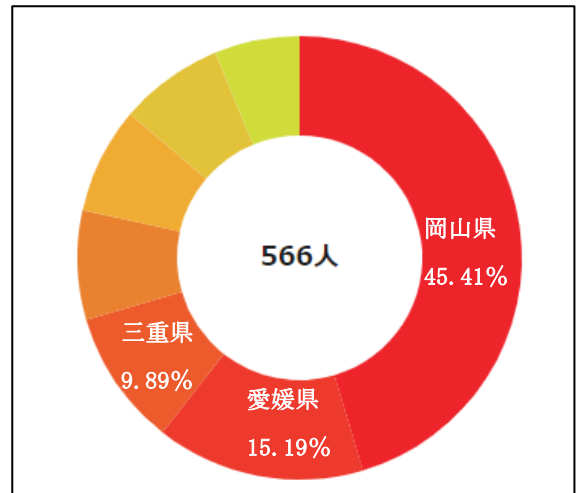
左図の「生産（付加価値額）」の内訳を面の大ききで示したグラフである。付加価値額が高いのは「住宅賃貸業」「はん用・生産用・業務用機械」「その他の製造業」である。なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業（赤色）と地域外から必要としているものを調達している産業（青色）を表している。



### <観光>

### 【From-to分析（宿泊者）（2021年）】

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。岡山県が 45.41%と最も高く、愛媛県 15.19%、三重県 9.89%、兵庫県 7.95%、広島県 7.77%、神奈川県 7.60%、大阪府 6.18%と続く。



### 【目的地検索ランキング（2020年すべての期間・休日）】

カーナビ等で経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「美星天文台」「井原ゴルフ倶楽部」「星の郷青空市」「田中美術館」の検索回数が増えている。

